

全国の舞台での活躍に期待!

2月20日、さまざまなスポーツの全国大会に出場する市内在住の児童・生徒が、長谷川市長と松本教育長を表敬訪問し、大会への意気込みを語りました。

「全国大会出場」という目標を叶えた選手たち。次なる大きな目標「全国大会優勝」を掲げて、日々努力を重ねています。



▲市長・教育長を表敬訪問した選手たち



菊川西中学校
ソフトボール部
石山 心優さん

石山さんは「まず、レギュラーにならないといけません。少し前から県代表チームでの練習が始まりましたが、練習のたびに、周りのみんなはうまいなって思っています。県大会優勝チームの選手もいます。1年生でピッチャーは私だけなので、上級生とのポジション争いです。右バッターへのインコースの球なら誰にも負けません。強みをさらに磨いて、優勝を目指します」と意気込みを語りました。

石山さんは「まず、レギュラーにならないといけません。少し前から県代表チームでの練習が始まりましたが、練習のたびに、周りのみんなはうまいなって思っています。県大会優勝チームの選手もいます。1年生でピッチャーは私だけなので、上級生とのポジション争いです。右バッターへのインコースの球なら誰にも負けません。強みをさらに磨いて、優勝を目指します」と意気込みを語りました。

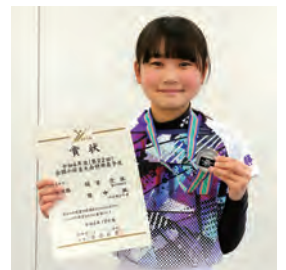
石 山さんは菊川西中学校1年生で、3月26日から千葉県千葉市で開催されるソフトボール競技の「第19回都道府県対抗全日本中学生女子大会」の静岡県代表選手に選出されました。18人の県代表選手のうち1年生は3人。そのうちの1人として選ばれました。ポジションはピッチャーで、サウスポーからくり出されるキレのあるピッチングが持ち味です。

「前に落とすボールが得意なので、もっと練習して極めていきたいです」と、得意技を笑顔で話してくれました。

稲葉さんは、「静岡県の代表として出場するので、1つ1つのプレイを大切に試合に臨みたいと思います。支えてくれた家族やMOS Tの仲間への感謝を忘れずに、練習の成果を発揮していきたいです」と意気込みを語ってくれました。また、「前に落とすボールが得意なので、もっと練習して極めていきたいです」と、得意技を笑顔で話してくれました。

大会予選会に向けて自分の弱点を克服するため、カットやストロークを入念に練習したそうです。予選会の試合当日は風が強かったそうですが、持ち前の順応能力を生かした結果、全国大会への出場をつかむことができました。

稲 葉選手は横地小学校5年生で、3月29日から千葉県白子町で開催される「第22回全国小学生ソフトテニス大会」に出場します。



菊川MOST
稲葉 愛珠さん



池新田高校 剣道部
川田 姫万梨さん(左)
山崎 優月さん(右)

池新田高校の活躍を誓いました。

川田さんが、「先鋒として元氣よく声を出して、チームの流れを作ることを心掛けて戦います」と話すと、山崎さんは、「私は大将を任されています。チームの最後に自分が勝負を決めることになるので、勝負強さは誰にも負けないつもりです」と応じました。また、「元氣よく声を出して、全国のどんな強いチームよりも注目されるような活躍をしたいです」と全国大会での活躍を誓いました。

池 新田高校剣道部の川田さんと山崎さんは、3月26日から28日に愛知県春日井市で開催される「第32回全国高等学校剣道選抜大会」に出場します。「県大会では2位となり、悔しい思いをしました。全国大会ではその悔しさを晴らせるような試合をしたいです」と、全国大会への意気込みを語りました。

川桔梗女子ソフトの皆さんは、3月24日から群馬県太田市で開催される「第16回春季全日本小学生女子ソフトボール大会」に出場します。

市内の選手5人が所属する今年のチームの特色は、「お互いに声を掛け合いながら、ピッチャーのコントロールで相手を抑え、堅い守備ができるチーム」です。また、「チームで声を出すことはどのチームにも負けません。声を出すことで、雰囲気も良くなり、それがチーム全体の強さにつながっていると思います」と強さの理由を話してくれました。最後に「全国大会の舞台を楽しみたいです。狙うは優勝です」と元氣よく宣言しました。

川桔梗女子ソフトの皆さんは、3月24日から群馬県太田市で開催される「第16回春季全日本小学生女子ソフトボール大会」に出場します。



掛川桔梗女子ソフト
稲垣 蒼海(前列左)、横山 暖歩(前列中央)、横山 桜音乃(前列右)、山内 星空(後列左)、岩瀬 真衣(後列右)